

企業における自然災害リスクとその対応策セミナー

深化するリスクマネジメント ～多様化・高度化する社会に応える～

開催：2017年9月20日(水) 受付 13:00～, 講演開始 13:30～

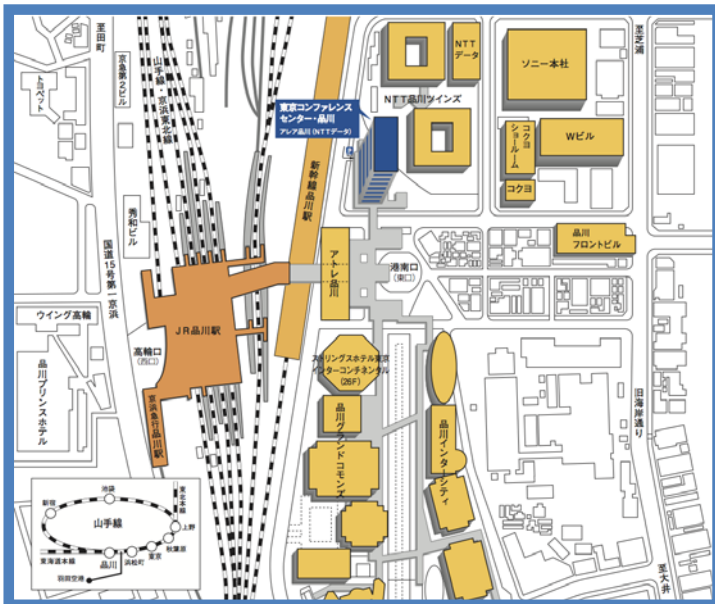
会場：東京コンファレンスセンター・品川

主催：応用アール・エム・エス株式会社, 株式会社イー・アール・エス

参加費：無料

OYORMS
応用アール・エム・エス株式会社

ERS
Engineering & Risk Services



会場

東京コンファレンスセンター・品川

〒102-8112 東京都港区港南1-9-36
アレア品川 5F 大ホール
TEL: 03-6717-7000 FAX: 03-6717-7001
<http://www.tokyo-cc.co.jp>

交通

- 品川駅へは…
JR 各線(山手線、京浜東北線、東海道線、横須賀線、上野東京ライン)、京浜急行にてお越しください。
- JR 品川駅からは…
中央改札港南口(東口)より徒歩2分。
駅からペDESTリアンデッキで直結しています。
- お車でご来場の方は…
近隣の公共駐車場をご利用ください。

開催内容

日時：2017年9月20日(水)
受付：13:00より
セミナー：13:30～16:50
会場：東京コンファレンスセンター・品川
5階 大ホール
定員：350名
参加費：無料
主催：応用アール・エム・エス株式会社
株式会社イー・アール・エス

◇ 参加申込方法

下記ホームページから参加申込を行ってください。
その場で受講証を発行いたします。
<http://www.oyorms.co.jp/>
<http://www.ers-co.co.jp/>
(ホームページ TOP より SEMINAR(セミナー情報)からお入り下さい。)

※ 締切 2017年9月13日(水)

セミナー当日は受講証とお名刺を1枚ご持参ください。
申込者多数の場合、先着順とさせていただきます。
ご了承ください。

◇ お問い合わせ先

セミナー事務局 (応用アール・エム・エス(株))
TEL:03-6434-9801 FAX:03-3479-0163
セミナー事務局 ((株)イー・アール・エス)
TEL:03-5786-0090 FAX:03-5786-0094

企業における自然災害リスクとその対応策 セミナー

深化するリスクマネジメント ～多様化・高度化する社会に応える～

ご挨拶

近年、地震のみならずさまざまな自然災害のリスクが顕在化しており、社会のニーズは多様化しています。一方、それらリスクをマネジメントするさまざまな技術の開発も進んでいます。今年度のセミナーでは、こうした多岐にわたるニーズに対する最近の取り組みを幅広くご紹介いたします。

前回同様、技術・サービス紹介のパネル展示も予定しています。本セミナーが皆様のリスクマネジメントの一助となれば幸いです。ご多忙中のこととは存じますが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2017年8月吉日

応用アール・エム・エス株式会社／株式会社イー・アール・エス

プログラム

時間	内容	概要
13:00-13:30	受付／開場	
13:30-13:40	主催者 開会の挨拶 イー・アール・エス	代表取締役社長 古澤 靖彦
13:40-14:05	超スマート社会が実現する防災減災システム -BCPの実効性向上に役立つ3つのポイント- 応用地質(株) 取締役 情報技術企画室長 天野 洋文	政府の「第5期科学技術基本計画」では、超スマート社会(Society5.0)の実現が掲げられています。モノと情報が高度に一体化した社会において、BCPの実効性を向上させるために、組織が取り組むべきことは何か。実用例をまじえながら、Society5.0が実現する防災減災システムを展望します。
14:05-14:30	火災リスクと避難安全計画 鹿島建設(株)技術研究所 都市防災・風環境グループ 主任研究員 桑名 秀明	近年、大規模な火災により多大な人的・物的損失が発生しています。火災の被害の軽減には、安全に避難できるかの事前検証が重要です。本講演では、火災と人の避難行動の一体的な解析が可能な避難シミュレータPSTARSや、避難困難者でも容易に避難できる防火施設ウォータースクリーンを実例を交えて紹介します。
14:30-14:55	立地特性調査に基づく 効果的なリスクマネジメント イー・アール・エス 黒田 育実	我が国は地形や気候といった自然条件により、自然災害が多発する環境にあります。自然災害情報をはじめとする地域の特性を空間的に把握する「立地特性調査」の実施は、自然災害リスクマネジメントのファーストステップとなります。本講演では、立地特性調査ならびに調査結果に基づく効果的なリスクマネジメント方法をご紹介します。
14:55-15:25	コーヒーブレイク	(パネル展示も併せてご覧ください)
15:25-15:50	地震リスク分析の活用方法 応用アール・エム・エス(株) 大野 大地	地震リスク分析方法を平易に解説するとともに、分析によって何がわかるのか、また企業活動にどのように利用されているのかを概説します。合わせて海外進出企業に向け、アジアモデルや海上貨物モデルなど最新のモデルについて紹介します。
15:50-16:15	活用範囲を広げる 地震リスク評価の適用事例紹介 イー・アール・エス 近藤 一平	地震リスク評価は、不動産証券化における建物のPML評価に加え、最近では再生可能エネルギー施設のファイナンスや証券化に係る評価、さらには企業のBCP策定に係る評価と、その活用の幅を広げています。本講演では、近年実施した地震リスク評価の適用事例を評価結果の見方とともにご紹介します。
16:15-16:40	地震による経済被害推計モデルと その活用について 応用アール・エム・エス(株) 高杉 剛	大地震による被害は、直接被害にとどまらず、事業中断・供給網の寸断による供給の低下ならびに家計所得の減少等による需要の低下を通じて、被災地域のみならず広域の実体経済に大きな影響を及ぼします。本講演では、経済学の一般均衡理論を応用した経済被害の推計モデルを紹介するとともに、その活用事例を紹介します。
16:40-16:50	主催者 閉会の挨拶 応用アール・エム・エス(株)	代表取締役社長 山田 敏博

参加申込要領

下記のホームページにアクセスし、必要事項をご記入の上、お申し込みください。
その場で受講証を発行いたします。

応用アール・エム・エス株式会社 ホームページ

<http://www.oyorms.co.jp/>

株式会社イー・アール・エス ホームページ

<http://www.ers-co.co.jp/>

(ホームページ TOP より SEMINAR(セミナー情報)からお入り下さい。)

セミナー当日には、受講証およびお名刺 1 枚が必要になりますのでご持参ください。

なお、ホームページにアクセスできない、また参加申込フォームでの登録ができない場合は、会社名/所属団体名、ご参加者名、部署名、役職名、住所、電話番号、FAX 番号をご記入の上、セミナー事務局まで FAX でご連絡ください。

FAX にて受講証を送付いたします。

申込者多数の場合、先着順とさせていただきます。ご了承ください。(定員 350 名)

申込受付済のEメールが届かない場合などございましたら、下記セミナー事務局までご連絡ください。

■お申し込み締切 : 2017年9月13日(水)

お問い合わせ先

応用アール・エム・エス株式会社 (セミナー事務局)

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-9 赤坂 MKビル

TEL:03-6434-9801 FAX:03-3479-0163

株式会社イー・アール・エス (セミナー事務局)

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-9 赤坂 MKビル

TEL:03-5786-0090 FAX:03-5786-0094

主催者紹介



【 応用アール・エム・エス株式会社】 <http://www.oyorms.co.jp/>

営業開始 1998年5月（分社のため設立は2006年11月6日）

株 主 応用地質株式会社、Risk Management Solutions, Inc.(以下、米 RMS 社)

事業内容

- ・地震、台風などの自然災害リスク分析サービス
- ・企業の自然災害リスク管理に関するアドバイザリーサービス

特色と実績

米 RMS 社が開発した RiskLink[®](自然災害リスク評価システム)[※]に応用地質(株)が保有する地質・地盤データを組み込んだ RiskLink[®]日本モデルを活用し、企業の自然災害リスクをファイナンスの視点も含めて評価しております。

企業の地震リスク対策の提案、投資用不動産や所有物件などのポートフォリオ地震リスク分析、地震保険加入の場合のリスク把握など、多数の案件を取扱っております。



【株式会社イー・アール・エス】 <http://www.ers-co.co.jp/>

設 立 1998年11月

株 主 鹿島建設株式会社、応用地質株式会社

事業内容

- ・地震、台風などの自然災害リスク分析サービス
- ・不動産の証券化などにとまなう建物のエンジニアリングデューデリジェンス
- ・土壌汚染、アスベストなどの環境リスク診断
- ・省エネ診断、再生可能エネルギー施設のデューデリジェンス

特色と実績

災害リスクのエンジニアリング評価・分析分野のパイオニア企業として、特に、生産工場施設に対する地震などの自然災害リスク分析では、高いエンジニアリング力が評価され、多くの実績があります。また、J-REITなどの証券化ビルのエンジニアングレポート作成についても多くのシェアを有し、ガイドライン作成をはじめ業界のオピニオンリーダーとなっており、格付け機関などからも高い評価を得ています。

【両社の関係】

顧客のあらゆるニーズに応えるべく、お互いの得意分野を補完しあい、相互に協力して、自然災害リスクマネジメント事業を推進しています。

主として、応用アール・エム・エス(株)は多数の保有資産のリスクを対象としたポートフォリオ分析を、(株)イー・アール・エスは個別企業、個別建物のリスク分析を得意としています。

※RiskLink[®]について

米 RMS 社(スタンフォード大学が母体となり1988年に設立された自然災害リスクマネジメント専門会社)が開発した自然災害リスク評価システム。世界中の様々な自然災害モデル(日本のモデルは地震と台風)を完備し、世界の自然災害に関わる損害保険契約の8割以上で利用され、この分野での世界標準となっています。